

社会科学習指導案

日時 令和 7 年 12 月 12 日(金) 4 校時

場所 紋別市立紋別中学校 3 年 B 組教室

生徒 3 年 B 組 29 名

授業者 教諭 前田 亮

1 単元名 「これからの日本経済の課題」

2 単元の指導計画

(1)単元目標

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
目標	公害など環境汚染や自然破壊の問題とその改善のあり方、グローバル化が進む国際社会における日本の貿易の過去と現状、地域社会の現状など、日本経済のこれからのあり方や課題の解決に向けて考えを深めていくための知識を理解する。	対立と合意、公正と効率、分業と交換、希少性などに着目して、環境保全の問題、グローバル化に対する国際社会における日本、地域経済の活性化など、これからの日本経済のあり方や課題とその解決について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。	環境保全の問題、グローバル化する国際社会における日本、地域経済の活性化など、これからの日本経済のあり方や課題の解決を視野に主体的に社会に関わろうとする。

(2)単元の指導計画

【単元課題】私たちは、日本経済の課題に対して、どのように解決を図っていくとよいか。

	主な学習活動・内容	評価規準と評価方法	校内研修テーマ・手立て
1 本 時	循環型社会に向けて ・公害問題への理解を通して、環境保全への取り組みが進められてきたこれまでの歴史や現状を捉える。	【思判表】 これからの循環型社会を形成するために、企業・政府・市民はどのような経済活動をする必要があるのか、持続可能性の視点から構想、構想し、自分の言葉で表現している。	★個別最適な学びと協同的な学び 表現するための十分な時間の確保と個人思考・話し合ってヒントを得る・ヒントを教えてもらうことの選択 ★ICT スクールタクトを使用した考えの表現、資料の提示
2	グローバル化する経済 ・経済におけるグローバル化の進展によって、国際社会では、何が起こり、その結果日本はどのような影響があったかを理解し、表現する。	【思判表】 経済がグローバル化することの長所と短所を踏まえながら、日本経済が抱える課題とその解決方法について、効率と公正の視点から、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。	★個別最適な学びと協同的な学び 表現するための十分な時間の確保と個人思考・話し合ってヒントを得る・ヒントを教えてもらうことの選択 ★ICT スクールタクトを使用した考えの表現、資料の提示

3	新たな日本経済のあり方 ・日本の「ものづくり」特徴や課題、地域による格差の解消に向けた取り組みなど、日本経済の現状を捉える。	【知技】地域間格差など日本経済が抱える課題の解決に向けて、利益そのものよりも自然環境との調和や地域住民とのつながりなど、新たな「豊かさ」を目指した経済活動が広がっていることを理解している。	★個別最適な学びと協同的な学び 表現するための十分な時間の確保と個人思考・話し合ってヒントを得る・ヒントを教えてもらうことの選択 ★ICT スクールタクトを使用した考えの表現、資料の提示
4	なぜ、貿易を行うのだろうか ・貿易のもつ利点、過去の日本の貿易のあり方や現状、為替レートのしくみなどを理解しながら、貿易の意義と国際社会における日本経済の課題について考えを深める。	【主学態】国際社会における日本経済の課題の解決に向けて、自らの学習を振り返り、今後の学習や生活に生かす事柄を見出している。	★個別最適な学びと協同的な学び 表現するための十分な時間の確保と個人思考・話し合ってヒントを得る・ヒントを教えてもらうことの選択 ★ICT スクールタクトを使用した考えの表現、資料の提示

4 本時の計画 (1/4)

(1)本時の目標 「環境を守りながら暮らしていくための経済活動のあり方を自分の言葉で表現する。」

(2)本時の展開

	○学習内容、主な学習活動 ●教師の働きかけ	留意点・準備物・手立て ★校内研修との関わり
導入 7分	○環境問題について考える。 ●公害について知っていることを記述させ、これまでの学習を振り返る。 ○環境問題と経済発展の関わりについて確認 ・経済発展の指標になるのは工業生産の発展によるが、環境へのリスクが大きい。工業発展と環境保全の両立が日本経済の課題の1つだと触れたうえで課題の提示につなげる。	★ICT の利活用 スクールタクトを利用し、表現させる。 ◎小学校までの学習との関わり 小5 社会 3-1 自動車の生産にはげむ人々 ～工業製品によって暮らしが豊かになった 5-3 環境をともに守る(中1 地理 九州) ～工業(製鉄)による北九州市の環境汚染
	<課題> 環境を守りながら暮らし続けていくためには、どのような経済活動をしていくとよいか。	
	・板書	
展開 36分	○これまでの日本の環境問題とその対応について理解する。 ・四大公害病について触れ、大気汚染・水質汚濁が特に深刻だったことに触れる。 ・公害に対する法令の整備など様々な環境問題対策があることを抑える。	◎教科横断的な視点 総合的な学習の時間～現代的諸課題 保健体育～健康と環境 ◎小学校までの学習との関わり 小5 社会 5-3 環境をともに守る～公害・四大公害病

	○環境問題の対策について、現在行われていることを自分の言葉でまとめる。 ●ワークシートを使用し、教科書内の資料をもとに自分の考えを記述させる。 ・ 1 2 3 4 の図や本文中（「環境保全の取り組み」の段落を参照）から環境基本法、汚染者負担の原則といった具体的な事例を挙げ、記述させる。 ・ 記述後に確認、板書 ○持続可能な社会を作るために、企業・政府・市民ができることを考え記述する。 ●循環型社会を実現することが、持続可能な社会の実現につながることに触れる。8 循環型社会の図や、教科書本文「循環型社会の実現へ」の段落を参照させる。 ・ 記述後に全体で確認、板書	★学び方の選択（個別・グループ協同） 十分な活動時間を取り、個別で作業・協同で作業・個別指導など必要に応じた方法での作業を選択する。 ◎教科横断的な視点～国語：文章記述 書く力 ◎教科横断的な視点 道徳～C(12) 社会参画・公共の精神 理科～再生可能エネルギー ★ICT の利活用 スクールタクトに自分の考えを理由とともに記述させる。
終末 7分	○環境を守りながら暮らし続けるための経済活動のあり方を課題に対するまとめとしてノートに自分の言葉で記述する。 ・ 自分のことばで表現していること ・ 様々な意見を踏まえて記述していること ・ 企業・政府・市民といった異なった立場の内容が記載されていること 以上の3点の上で表現できているとよい。 ○振り返りシートを記入	<まとめ> 例 環境を守りながら暮らし続けていくためには、企業は汚染に対する処理をする責任を持った生産を行う。市民は自分が3Rなどできる環境対策を行う。政府は環境を守りながら経済発展ができるような政策を考え実行する。

(3)課題の提出、評価

○課題の提出方法

- ・ 本時で使用したワークシートの提出・スクールタクトの記述・振り返りシートを記述し提出

○評価内容

①ワークシートの記述内容

- ・ 環境対策としての事例を理解し表現することができている。
- ・ 本時の課題に対するまとめにつなげることができている。

②スクールタクトの記述

- ・ 循環型社会を構築しながら企業・政府・市民（のいずれか、またはすべて）が可能な経済活動を、自分の言葉で表現している。

③振り返りシートの記述

- ・ 本時の学習内容を学習したことばを用いながら表現している。